

日本留学中の日本語学習者の社会言語能力の発達

—L1中国語話者の「感謝」の事例から—

市原 明日香

1. はじめに

外国語としての日本語教育において、コミュニケーションの基盤となる言語能力とは言語知識だけでなく、相手や場面に合わせて適切にやりとりすることのできる社会言語能力が重要であるということは広く知られてきた。2010年に社会言語能力を言語運用力の基盤の1つとした「JF日本語教育スタンダード」(国際交流基金 2020)が開発され、コミュニケーション言語能力は「言語構造的能力」「社会言語能力」「語用能力」の3点が基盤とされている。この「社会言語能力」とは、「相手との関係や場面に応じて、いろいろなルールを守って言語を適切に使用する能力」(p.8)とされており、本研究の「社会言語能力」とはこの定義を指す。JF日本語教育スタンダードが開発されて以降、社会言語能力を中心に据えた教材も出版されるようになってきた(清水 2013など)。とはいえ、社会言語能力の促進の教育の余地は不明であり、教師の裁量に任されている。そのような社会言語能力の一つに感謝表現がある。英語の習得研究では、「感謝」を幼少期に学ぶ母語話者は、感謝表現を他の言語と共通する普遍的なものを見なしており、thank you (ありがとう)の背景にある感謝のやりとりを充足させる複雑なルールについて意識しておらず、外国語として感謝表現を学ぶ英語学習者にとって様々な状況で適切に感謝することを困難にしているという指摘(Eisenstain & Bodman 1993: 64)があり、日本語教育についても同様の指摘がされている(市原 2018)。実際、総合テキストにおいて「依頼」「許可」「勧誘」等の社会言語能力はそれぞれの文法項目「～テクダサイ」「～テモイ」「～マショウ・～マセンカ」等の学習に含まれ、様々な場面で練習されることが多い一方で、「感謝」は独立した項目ではなく「あいさつ」と同列のフレーズとしての導入に留まっていることが一般的である(『みんなの日本語 I』: 5, 『げんき I』: 30, 33)。人間関係による使い分けや場面や状況については詳しくなく、学習者がすでに身につけている日本語以外の語用論で発話するしかないことは想像に難くない。特に、中国語と日本語の感謝の語用論に明白な差異があることは次章で述べるように明らかにされている。すなわち中国語を母語とする学習者にとって日本語での感謝は社会言語能力が試される場面といえる。そこで、本研究は中国語を母語とする日本語学習者を例に、感謝表現に焦点を当て、学習者の社会言語能力の発達について考察する^(註1)。

2. 先行研究

2-1 日本語学習者の「感謝」の社会言語能力の研究

日本語学習者を対象とした日本語の「感謝」の社会言語能力については、詫び表現「すみません」を感謝に用いる語用論が研究対象にされてきた。その結果、初級レベルの学習者は母語の表現を日本語に置き換えているが、上級レベルになると感謝場面でも「すみません」の詫び表現を併用する母語話者に近い表

現になること（日比野・長友 2000）や、上級レベルでは母語話者に表現が類似すること（孫 2007、金 1995）が指摘されている。ただし、英語の学習者の語用論の発達について「感謝」に限らず目を向けると、第二言語（以下、L2と略す）の言語能力の高低と語用論的転移との相関関係は研究によって結果が異なっており（Maeshiba et al. 1996）、必ずしもL2の言語能力が上がれば第一言語（以下、L1と略す）の語用論的転移がみられなくなるとは言えないとされている。学習者の様々な属性を変数として語用論的能力をみた先行研究では、L2の言語能力よりも、心理的要因や、L2環境における滞在期間の長短、母語話者との接触の頻度などが変数として影響する可能性が指摘されている（Takahashi 2000）。語用論的能力の高さと滞在期間の長さの相関は研究によって異なるが、社会的接触の質や密度が影響するという結果（Kasper & Rose 2002）もある。以上のように、社会言語能力の発達については特に社会的環境の影響が小さくないと考えられるため、学習歴やL2言語環境、母語話者との人間関係など、個々の学習者の多様な社会的環境を考慮に入れて検討する必要がある。

また、社会言語能力をみる分析概念に、語用論的転移（Kasper 1992: 202）があるが、言語間の影響はL1からL2の一方通行ではなく、習熟度が高いL2学習者にはL2からL1への影響、すなわち逆行転移がみられること（Cook 2003）にも留意して分析しなければならない。L1中国語の日本語学習者を対象とした研究では「助言」（黄・玉岡 2015）と「断り」（鈴木 2013）に逆行転移が確認されているが、いずれにしても記述式調査で量的に逆行転移を実証している。日本語学習者の「感謝」の逆行転移については、L1中国語の日本語学習者の会話にL1中国語とL2日本語の感謝ストラテジーの併用が見られることから、L2語用論へと調整している可能性が指摘されている（市原 2022）が、検証はなされていない。学習者がL1とL2の語用論のギャップをどのように理解し、母語話者とのインターアクション場面である「接触場面」（ネウストプニー 1995）で自らの感謝談話を組み立てているのか、どのようにL2の語用論を学び、実践しているのかについては十分に明らかにされていない。

2-2 中国語と日本語の感謝の語用論の差異

日本語と中国語の感謝について対照した研究は数が限られている。市原（2015）によれば、「感謝」の言語行動を研究課題として日本語と比較対照された言語は英語、韓国語、シンハラ語で半数を占める（市原 2015: 2）。市原（2018）は中国語をL1とする学習者に自由記述式調査を行い、日本語の感謝に対して肯定的な評価よりも、むしろ否定的な評価が顕著であり、上級レベルの学習者であっても日本語母語話者との接触場面において戸惑いと困難を感じているという結果を示した。具体的には、中国語を母語とする日本語学習者にとって困難である点は、まず、日本語のほうが感謝する回数と場面が多いこと、第二に、中国語では友人同士の親しい人間関係や家族間では感謝のことばを言わないが日本語では言うこと、第三に、日本語の感謝は敬語を含めバリエーションが豊富であること、第四に、中国では感謝は行動で示すが日本では口だけですますことが多いということであった（市原 2018: 11-14）。これらの結果は、これまで中国語教育などの文脈で一般的に言われてきた通説を支持している。日本語の「感謝」の語用論的慣習は、相手との人間関係による使い分けと、使用する場面の多様さの点で中国語とは明らかに異なる。そのため、中国語をL1とする学習者にとって日本語の社会言語能力が試される場面だといえる。

2-3 残された課題と本研究の目的

これまでの研究を管見する限り、学習者個々人の学びの経験や、学習者が自らの社会言語能力の発達をどのように捉えているのかについて十分明らかにされていない。日本語学習者の社会言語能力

の発達を検討するために、心理的要因や社会的環境、留学前後の学習歴や学習方法といった要素も含めて詳細に記述することが必要だと考えられる。そこで、本稿では、個々の日本語学習者の多様な学習背景、すなわち、学習歴、L2日本語環境における滞在期間、母語話者との接触の頻度、母語話者との人間関係、心理的要因についても考慮に入れながら、感謝という日本語の社会言語能力について学習者の視点から探索する。学習者がL1とL2の語用論のギャップをどのように理解し、母語話者とのインタラクション場面である接触場面で自らの感謝談話を組み立てているのか、どのようにL2の語用論を学び、実践しているのかについて個々の経験から検討してみたい。中国語母語の日本語学習者の「感謝」の経験と学習について考察することを目的とし、研究課題を以下とする。

研究課題1：学習者にとって社会言語能力発達を促す学びはどのような経験か。すなわち、日本語学習の過程で、日本語学習者がL1中国語との差異について気づきを得る契機や日本語の「感謝」の語用論的慣習を学ぶ契機は、どのようなものであるか。

研究課題2：学習者はL2日本語の接触場面で、L1中国語と異なる「感謝」の語用論的慣習をどのように捉えて運用しているのか。

3. 研究方法

3-1 インタビューの方法

日・中両言語の「感謝」の語用論という特定の事象に焦点を当てるため、焦点化インタビュー（サトウ他 2019）として事前に質問項目を準備した。ある程度の仮説や想定から質問項目が決まってはいるものの、調査者の想定外の回答を引き出す余地を残し、回答者の返答によっては詳細な語りを引き出す方法として半構造化インタビューが本研究課題に適しているため採用した。質問項目は、以下の3点を設定したうえで半構造化インタビューの手法により回答の内容に応じて適宜質問を増やして行った。

- (1) 「日本語と中国語の感謝の言い方について、何か違いを感じるか」
- (2) 「日本語の感謝の言い方を、いつ、どのようにして学んだのか」
- (3) 「自分が感謝の言葉を使う時、相手が日本人と中国人とで何か違いがあると思うか」

質問項目(1)はL1とL2の語用論の差異をどのように認識しているかについて、(2)は、学習経験および学習の機会や方法について、(3)は接触場面での自己調整について聞くことを目的としており、(1)(2)は研究課題1を、(3)は研究課題2を明らかにするためのものである。

手順としては、まず、L1中国語の学習者（以下、CNと略す）と日本語母語話者（以下、日本語NSと略す）の学生を二人一組のペアにし、接触場面のロールプレイ会話を行ってもらった^(註2)。ロールプレイ後にCNに対してインタビューを行った。インタビューでの回答は中国語の使用も可とし、録音して文字化しデータとした^(註3)。ロールプレイでは事前に感謝の場面とは告げず、感謝の言葉を述べるかどうかはCN次第であった。ロールプレイでの自らの反応を刺激として、インタビューの際に適宜ロールプレイのビデオを再生して質問に答えやすくする刺激再生面接法（Gass & Mackey 2000）の手法で行った。

3-2 研究協力者と調査者の立場

研究協力者は東京の複数の大学に所属する留学生たちである。調査者との関係は、CN43以外は調査者と初対面であった。CN43は調査者が担当する日本語クラスを過去に受講した者で、利害関係は無いがラポールは築かれていた。語り手は聞き手との相互行為の中で自らの語りを構築していくことから、聞き手

の問いかけや反応もインタビュー内容の一部であり、語りの過程とみなされる。そのため本稿のインタビュースクリプトでは聞き手の発話も省略せずに記す。本調査では、日本人教員である調査者と学生である中国人留学生という関係性は少なからず回答に影響しているはずであり、日本語教師の調査者に対し、学習の経験、気づきの契機、日本語のエピソードについて、積極的に語られている可能性がある。また、調査者は回答を誘導しないように細心の注意を払ったが、協力者は調査者に説明するという目的のために日・中の同質性よりも異質性について強調した可能性もある。表1に仮名と属性を示す。

表1 インタビュー回答者 ※滞在期間の短い順に上から

仮名	性別	年齢	出身	専攻	日本語レベル [JLPT 点]	学習歴	滞在期間合計
CN01	女	24	湖南省	法学	N1 124点	4年	5か月
CN59	女	20	山東省	理工	N1 165点	5年	6か月
CN05	女	22	安徽省	日本語教育	N1 146点	5年	10か月
CN10	女	25	遼寧省	日本語教育	N1 147点	7年6か月	1年
CN48	女	20	吉林省	政治学	N1 100点	2年8か月	2年
CN62	男	22	内モンゴル	理工	N1 140点	3年7か月	3年7か月
CN43	女	26	雲南省	経済学	N1 130点	4年	4年
CN49	女	19	上海市	経済学	N1 点不明	7年10か月	8年
C-JN	女	20	沖縄	総合政策	Native Speaker		

性別は女性8人、男性1人で、出身は中国の北部が4人、南部出身者が4人で中国全土にわたっている。皆JLPT（日本語能力試験）の上級レベルのN1に合格しているが、合格時期にはばらつきがあった。日本語学習歴は2年8か月から7年10か月であった。日本滞在期間と学習歴の相関には個人差があり、日本に来てから日本語を学び始めたのはCN43とCN62であった。C-JNは当初は日本人としてロールプレイの相手役に参加したが、いわゆるバイリンガル話者であることが判明したためインタビューに回答してもらった。両親が中国人で、本人は日本で育ったため日本語NSであると共に、家族とは中国語で話すという言語環境にある。

3-3 オープンコーディング

コーディング方法には、予めコードを設定した上で個々の発話を分類していく演繹的方法もあるが、本研究は質的分析で帰納的方法をとるため、インタビューデータなどの具体的なテキストを切り分け、抽象的概念にしていく基本的な帰納的方法としてオープンコーディング（サトウ他 2019：p.73）が妥当と考え採用した。インタビューデータは各人5分から10分程度で、内容ごとに切片にし、38の切片になった。ラベル（【 】内の文）を付与した上で、質問項目ごとにまとめて概念化していった。概念化してまとまりとなったコードを次章で節の小見出し(1)~(4)として記す。小見出しは7つになり、「日本語熟達者のロールモデルから学ぶ」「学習言語環境での接触場面から学ぶ」「日本語NSからネガティブ・フィードバックを受ける」「日本語場面ではお礼を忘れる」「日本語場面で切り替える」「中国語も日本語の『感謝』に変わる」「中国の親や友達による違和感の反応」というコードになった。これらをインタビュー項目の内容順にまとめて2段階目のコードとし、次章の大見出しで記す。すなわち「L1とL2の語用論の差異」「社会言語知識の獲得の機会」「接触場面での適応と調整」の3点である。

4. 結果

4-1 L1とL2の語用論の差異

学習歴4年で滞在歴5か月のCN01は、「謝謝とありがとうの違いはあまりないと思います。」と述べたが、ロールプレイの際の感謝の言葉と共に現れたお辞儀について質問すると、中国ではお辞儀はしないが、日本人相手ならすると答えた。

【CN01 日本人と会うときはお辞儀をする】

調査者：友達にもいつもお辞儀をしているんですか。

CN01：日本で友達と会うといつもお辞儀をしながら話します。中国でそういうお辞儀が全然ないです。でも中国で日本人の友達と会うとお辞儀をします（笑い）

お辞儀に関する違和感CN10（学習歴7年6か月、滞在歴1年）の回答にも述べられた。

【CN10 本当に親しいのかなという感じ 特にお辞儀】

調査者：友達同士でありがとうと言うことは中国と違いがありますか。

CN10：この二人親しいのかな、遠慮しすぎて、それが感じられます。

調査者：本当に親しいのかなという感じになる？

CN10：思いますね。ありがとう自体は言うかもしれないけど、こんな（お辞儀をする）とかドラマみたいな感じ、本当に相手が目上の人じゃないと、とても違和感がある。特にお辞儀とかは。

L1とL2の語用論の差異については他には、CN05によれば、中国で付き合いの長い友人にはお礼を言わないが、日本で知り合ったばかりの中国人にはお礼を言っていたという。

【CN05 付き合いが長くなるとお礼を言わなくなる】

CN05：日本で知り合った中国人の友達と中国で付き合いしている友達とはちがって、普段の、資料を見せてくれたとか、今日の授業はどこでやるか教えてくれたとかいうことを聞いて、あまり深くかかわっていないからとりあえず礼を言っていました。今はもう4か月たって毎日会っているし、このあいだ、Wi-Fiを借りにいった時もだんだん礼を言わなくなった。

調査者：なるほど。中国での友達も同じということですか。

CN05：はいはい。最初、中国の大学に入ったときも周りの人とお礼とか言います。

【CN05 イベント後やメール文で使う。使う場面が異なり、難しい】

調査者：日本人の相手と中国人の相手で感謝の言い方に違いがありますか。

CN05：大きなイベントが終わった後、中国人はありがとうございましたとかおつかれさまでしたとか言わないです。

調査者：CN05さん自身もそうしている？

CN05：そうですね。あまり中国人はそんなこと言わないです。特にみんなで協力してやったことには。

調査者：日本人の友達とかクラスメートに対して感謝が難しいと思ったことがありますか。

CN05：むずかしいことは使う場面がむずかしいと思っています。今はとにかく日本人、メールで書くとも必ずありがとうございます、つけます。

L1中国語とL2日本語の語用論の差異についての回答は、これまでの研究から予想される結果であった

が、感謝の言葉を使う場面が難しいと感じ、中国語では無いが日本語では感謝の言葉がある場面の例として、メールやイベントという具体的な場面は新たに指摘された点である。

4-2 社会言語知識の学びの機会

日本語の感謝の語用論的慣習の学習の機会について、「日本語の感謝の言い方をいつどのようにして学んだのか」という質問に対する回答を検討する。

(1) 日本語熟達者のロールモデルから学ぶ

まず、日本に来る前に教師から学んだというのはCN48である。

【CN48 日本に来る前に日本生活が長かった先生が教えてくれた】

調査者：中国にいた時に日本語の先生に教えてもらったことはありましたか。

CN48：ありますね。あの先生も日本で10年以上生活とかしたことがありますから、知識だけでなくいろんな文化とか、そんな場合にそう言ったらだめだよーと教えてくれて、あーなるほど。感謝の事もレベル・人によって違いますよと、そんなことを色々勉強しました。

CN48は教師の「10年以上」の長期の日本生活経験を信頼性の証左とし、「そんな場合にそう言ったらだめだ」「レベル・人によって違います」と場面や人間関係に適切に対応できるよう教わったという経験を語っている。同じ中国語を第一言語とする教師がロールモデルになっているといえる。CN59も、「5年も日本にいる」「日本語が上手」な先輩を熟達者のロールモデルとして【CN59 日本に長期間いる先輩に相談した】という。

調査者：ありがたい言い方が上手ですごくびっくりして、さっきのロールプレイでも日本人っぽくやってたから。いつ知ったんですか。どうやって身に付けたんですか。

CN59：そういうことは全然足りないと思いますけど、でも、たぶん、ずっと日本に生活していたらそれはだんだん身に付けるだと思えます。それはけっこう悩みなので、昨日先輩に相談しました。

調査者：え？何の悩み？

CN59：そういう色々な状況の対応の言葉、わからないとか。けっこう日本語のレベル、あの、どのくらい勉強しているか関係なく、そういうところはけっこうむずかしいだと思えます。例えばあいづちみたいなものですね。あの、他の人が言って、それをどうやって答えるのか、それは自分が知っているとしても、そのリアクションとかけっこう難しいだと思えます。

調査者：で、中国の先輩に相談したの？

CN59：はい。

調査者：そしたら、どんな答えが？

CN59：たぶん日本にもっと長くいれば分かれるかなあ見たいな感じで。まあ5年も日本にいて日本語が私より全然上手な先輩なんです。もっといろんな人と会って話をすればうまくいくと思えますって先輩が。

CN59の言う「状況の対応」「リアクション」とは、会話のやりとりのパターンや、会話の語用論上のルールを身に付けて適切に運用することとみられ、その運用力は学習歴が長くても難しいと悩んでいる。解決方法について「先輩」から「もっと長く」日本にいて「いろんな人と会って話をする」ことだという言葉

を引用し、「ずっと日本に生活していたらだんだん身に付ける」と考えている。CN59は学習言語環境で困難を感じたことから、自分よりも「日本語が上手」で長期滞在している先輩に相談し、習得の方法を模索した。学習言語環境の滞在期間と様々な日本語NSとの接触の機会を増やすことが必要だと考えている。

(2) 学習言語環境での接触場面から学ぶ

明示的指導を受けたことよりも、学習言語環境である日本に来て学んだという回答が顕著であった。学習言語環境で学ぶ場合、日本語NSを観察して学ぶ場合と、日本語NSとのインタラクション、すなわち接触場面で学ぶ場合がある。CN01は【CN01 映画の場面と日本語NSとのチャットで、「どうも【お辞儀】を学ぶ】と述べた。

調査者：[ロールプレイビデオを再生] ここのところ、お辞儀がすごく丁寧だったから、丁寧な気持ちだと思ったのだけど。

CN01：あ、〇〇[筆者注：チャットアプリ]でいつも「どうも【お辞儀のイラスト】」を使っているので、つい使っちゃった。

調査者：どこかで勉強したとか、日本人にはこうやってどうもっていうんですよと先生から教わったとかそういうことではないんですか。

CN01：あ、どこで学んだかですか。映画を見るとき、この、どうも【お辞儀】知りました。日本語の先生は「どうもありがとうございます」の、ですますを教えてくださいました。会話の授業で友達と練習すると「ありがとう」と言います。

調査者：そこでは練習したけれど、NSさんとはふだんの〇〇[チャットアプリ]で「どうも」だったから、「どうも」だったんですね。

CN01：はい。

他に学習言語環境のインプットから学んだ例として、CN05は、【CN05 実際の場面を見たら学んでいる】という。

調査者：日本語での感謝の言い方っていうのは日本語を勉強しながら、先生から教わったということですか。

CN05：今の大学院ではそういうことは教えないですよ。前の日本語学校では少しぐらい教えてもらいました。あとは普段、友達とか日本人のしゃべり方からそれを学んでいます。実の場面でどういうときに日本の方が礼を言うかとかそういう場面を見たら学んでいます。

CN05は大学院の日本語教育専攻に所属しているが、感謝の言い方のような知識は日本語学校では少し教えるが、大学院では教えないこと、「どういうときに日本の方が例を言うか」偶発的な場面を見て学ぶと述べた。

同じように偶発的な場面の学びとして、CN62は学習言語環境である日本でアルバイトの経験から、【CN62 ただトイレの場所を教えただけでありがとうと言ってくれた。日本がなんかいいと思う】と接触場面で気づきを得た経験を述べた。

調査者：日本でありがとうって言う時と、中国でありがとうって言う時と違いがあると思いますか？

CN62：まあそうですね、中国人は「ありがとう」の意味はあんまり、国民性っていうか、恥ずかしいだから、普段もあんまり慣れてないんで。特に、日本の家族はどんな感じが分からないん

だけど、特に中国では家族お互いあまり「ありがとう」とは言わないんですけど。

調査者：違うのに気が付いたのはいつですか？日本に来てから気が付いた？

CN62：はい、そうですね。日本へ来てから、えーと、最初にバイトした時はよく気付いたんですけど、例えば、僕は前のバイトは飲食店なんですけど、ただのトイレの場所を教えるだけで、向こうが「ありがとう」を言ってくれた。日本がなんかいいと思う。

調査者：いいと思った。へえ。いいと思うのはどういようにいいと思った？

CN62：まあ、礼儀正しいっていうか、ただの「ありがとう」の言葉でお互い気持ちよくさせるっていう感じですね。

CN62はアルバイトが接触場面の機会となり、中国語ではお礼の言葉がない場面に接した。日本語の感謝の語用論に気づいただけでなく、既存知識にはなかった些末な場面でも感謝を言うという驚きから、「礼儀正しい」という既存の類型的な認識を結びつけ、「日本がなんかいいと思う」「お互い気持ちよくさせる」と肯定的に捉えた。

(3) 日本語母語話者からネガティブ・フィードバックを受ける

CN43は「中国人同士の電話だったら逆にありがとうを言うと離れた感じがする」が、「日本の文化なので」「どんなに親しい人でも」「言わないと逆に失礼」だと日中では「逆」になる規範を捉えており、日中で語用論上の規範が矛盾する「友人への感謝」について日本語に適応している。

【CN43 中国人同士の電話だったら言うのと離れた感じ。日本人には言わないと逆に失礼】

調査者：CN43さんが、何度も繰り返しありがとうありがとうって上手に日本語で言ってるんですけど、中国語と違いは感じますか？

CN43：すごい感じます。なんか中国人の友達、中国人同士の電話だったら逆にありがとうを言うと離れた感じがするんですね、でも日本人は、日本の文化なので、言わないと逆に失礼。どんなに親しいでもそれを表現しないのはなんかよくないなと思って。

CN43がこのようにL1とL2で「逆」になる語用論上の規範を理解した契機について質問したところ、日本語NSからフィードバックを得た経験が以下のように述べられた。

【CN43 日本人の彼氏からありがとうと言ったほうがいいと言われる】

調査者：それは、何か、日本語の先生に教わったとか、それとも自分で何か経験をして覚えたんですか。

CN43：えーと、私、彼氏、前彼が日本人だったんですよ。で、彼氏が、中国で知り合って、すごい中国語上手な人なんで、その時まだ日本語わかんないですよ、それで、自然に付き合っているうちに彼氏から教えてくれたんです。日本人だったら、ちゃんとありがとうと言った方がいいって。

調査者：へー。どういう時に？それは例えば。

CN43：なんか、喧嘩する時に、「なんであなたがいつもありがとうとか言わないんですか」って。彼の考え方は気持ちを伝えるべきって。ありがとうを言わないと相手が分かんないんですよ。だからそれは正しいって言われたから。

調査者：で、日本人と付き合う時は、友達とかと付き合う時も、言うようにした。

CN43：言うように、うん、してます。

CN43は日本滞在の経験もなく日本語能力もない時に、中国語でコミュニケーションしていた日本人の恋人とのけんか、つまり、社会的接触の質と密度の高い場面において、日本語NSからのネガティブ・フィードバックによって日本語の感謝の語用論を身につけた。学習言語環境で自然に学ぶ際、自らの言語運用について日本語NSからのネガティブ・フィードバックが得られにくいために気づきが得られにくいという問題があるが、CN43はネガティブ・フィードバックを得た稀な例である。

4-3 接触場面での適応と調整

日本語NSとの接触場面でどのようにふるまうかについては、「日本語場面ではお礼を忘れる」「日本語場面で切り替える」「中国語も日本語の『感謝』に変わる」「中国の親や友達による違和感の反応」という4つのコードになった。

(1) 日本語場面ではお礼を忘れる

「自分が感謝の言葉を言う時、相手が日本人と中国人とで何か違いがあると思うか」という質問に対し、CN05は【CN05 中国語では言ったが日本語では色々考えることが多いので忘れた】と述べた。

CN05 : このときのカードを読んだとき授業についてで、その時、おみやげのことは思いつかなかった。中国語で話しているときは思い出したけど、日本語の時は忘れました。日本語のほうが色々考えることが多いから、おみやげのことは忘れました。

CN10は日本語の感謝の語用論を知識として得ていてもその場面で忘れたことに後から気づいたという。

【CN10 お礼を言うのを忘れたことに気付くことがあった】

CN10 : 日本人が相手で、言うべきだと知っているんだけど、でもそれを忘れた時もあります。

調査者 : あ、本当。忘れたって後から気がついた？

CN10 : そうです。例えば先日、事務の人になんか処理してもらって、で、また会って、でもその事を、一週間前だから忘れてしまって。で、向こうから、それ今どうなっていますかとか聞かれて、あっ、お礼言わない、お礼言うのを忘れたっていうことに気付いた、とか、よくありました。

調査者 : それは中国人だったら言わない？

CN10 : 言わない。言わないのが普通。たぶん前、怒らせたと思います。日本人にお礼を言わなくて相手が怒ったとしても気が付かないです。気が付かなくて。

調査者 : あ、日本に来たばかりの頃？

CN10 : そうですね。まあ一年間いたから、今は前よりはちょっとよくなった感じで。

CN10は回答者の中でも日本語学習歴が7年半と長く、大学院の日本語教育専攻で帰国後は日本語教師になる予定であり、日本語レベルは相当に高いが、「お礼言うのを忘れたっていうことに気付いた」ことがよくあった。「怒ったとしても気が付かない」と日本語NSからのネガティブ・フィードバックが無いことに留意している。

(2) 日本語場面で切り替える

中国語と日本語を切り替えていたのはCN10とCN48であった。

【CN10 中国では同じように言わない。日本文化に気を遣う】

調査者 : ビデオとってたら、CN10さんすごく上手にお礼を言っていましたよね。で、中国に戻った時

に、友達とか親とかに日本と同じようにお礼を言うことってありますか。

CN10 : ないです(笑い)。変な、変わった人だと思われちゃうんで。

調査者 : 切り替えてるってこと？

CN10 : そうですね。日本人と話す時はやっぱり日本の文化とかちょっと気を遣って。中国人の友達とは普通の生活の中で言っても軽く、あるいは、直接ありがとうと言うよりは、「[レポートを手伝ってもらったロールプレイでは] このレポートAもらったよ点数」とか間接的に助かりましたとか内容の中に含まれているのでそっちのほうがもっと自然な感じです。

CN10は日本人と話す時は日本の文化に気を遣い、切り替えているという。同様にCN48も切り替える意識があり、それは「外国人だから礼儀正しい方がいい」と思うからであった。

【CN48 外国人だから礼儀正しい方がいい】

調査者 : 感謝の言い方、CN48さんはすごい上手に感謝してたと思うんですけど、中国の友達と日本の友達、違いはあると思いますか。自分が言う時。

CN48 : なんか、日本人同士と一緒にいた時、お礼をしたら、たぶん、ありがとね。あーちょっと礼儀正しい方がいいと思って。で、中国人にお礼を言いたかったら、うーん、そんなにまじめに言わなくても相手が分かるから。でも、日本人同士にお礼をちゃんとしなかったら、たぶん相手が、えーあの人ちょっとおかしいかな、ちょっとマナー悪いかなど思うかもしれないし、中国人も場合によってはかもしれないけど。やっぱり私外国人だから、日本人と一緒に友達する時にやはりちょっと礼儀正しいのほうがいいと思います。

調査者 : その言い方というのは、日本人にそういうふうに言った方がいいよというのは、誰かに教えてもらったんですか。それとも自分で何か経験をした？自分で友達と付き合っていて何か言われたということはありませんか。

CN48 : あーそれは相手から礼儀正しいのほうがいいですよ、とは言わないですね。それはちょっとしつけ、上から目線で私を教えたりすることになっちゃうから。思ってもたぶん言わないですね。私、そんな風に礼儀正しいのほうがいいと思ったのはやっぱり、親からも、外国でちゃんとしてくださいねと言って(笑い)。失礼な事、迷惑かけないでねと。

CN10は中国で日本語と同じように礼を述べると「変わった人と思われる」と考える。日本人と話す時は日本文化に気を遣う。中国語のほうは間接的に感謝を示すのが自然であるとし、両言語の語用論を明確に切り替える。CN48は「外国人だから」と自らを位置づけ、お礼をしなかったら「ちょっとおかしい」「マナー悪い」と思われるかもしれないので「礼儀正しく」ふるまうよう自ら意識している。日本人は「思ってもたぶん言わない」と、日本語NS側は「礼儀正しさ」といった社会文化規範に関わるネガティブ・フィードバックは行わないことに留意しつつ、日本留学にあたり親から言われたように、「マナーの悪い外国人」という否定的な評価を回避するために日本語では友人にもお礼を言う。

(3) 中国語も日本語の「感謝」に変わる

自らの感謝の慣習が日本語の慣習に変わったという語りも複数あった。16歳から日本の高校で学んでいるCN49は自らの変化を認識している。

【CN49 日本に来てありがとうが多くなった 中国でも言うようになった】

CN49 : あ、けっこう、私は日本来てから、あのありがとうとかけっこう多くなったんだと思うんです。
あと、すみません、ごめんねとか。中国だったら、あの、私が上海にいていつもありがとう、
謝謝、謝謝ってなんか麻烦您了、申し訳ないとかいうと、向こうの子はなんでそんなに、え、
なんか友達じゃないみたいな話を言うのみたいに言われるから、それは違うなけっこう。

調査者 : うんうん。

CN49 : 日本だと例えば今日遊んでお世話になって、で次の日になって「昨日ありがとう」とかそういう
メールとか送るじゃないですか。

調査者 : うんうん

CN49 : 中国とかそういうのはないから、中国とか当日限りみたいなけっこうあって。あと、例えば
外でレストランでご飯食べる時も、中国では店員さんとかしてくれて当然って感じなんです
けど、日本ならお皿持って行ってくれてもありがとうって感じじゃないですか。中国だとお
皿持ってきてくれても当たり前だから別に何にも言わない。今、中国に行っても食卓の上を
きれいにするとか気にかけてる。店員さんにありがとうって言って、食べ終わった後きれいに
したりとか、一応。自分は日本の飲食店でバイトしたことあるので、そういうことをして
もらったお客さんにすごい感謝なんですよ。で、自分も使っているんですよ、つい。

【CN49 日本でありがとうやごめんねを身につけて中国でも言うのはいいと思う】

調査者 : それは自分で気がついて、自分で中国にいる時はやめようとか日本にいる時は言おうとか？

CN49 : いや、そう、別にやめるとかじゃないんですけど、普通に日本でありがととかごめんねとか身
につけているので。でもそれはそれでいいと思います。たぶん向こうも聞いてて嬉しいと思う
ので。

調査者 : ああ。でも、友達なのに言っても？

CN49 : ふつうにやめてよ、みたいに冗談ばく言われるだけなので。そんなありがと言わないでよ、
みたいな。あたりまえじゃん、みたいな感じです。

CN49は日本での飲食店の店員アルバイトの経験から、中国の店員にも中国語で感謝の言葉を言うよう
になった。日本で「ありがとう」や「ごめんね」を言う慣習を身につけて、中国でも言うようになったこ
とは「それはそれでいいと思う」。友達に言う場合も、冗談のように軽く受け止められるという。

(4) 中国の親や友達による違和感の反応

学習経験や語用論的慣習の差異への気づきについて質問したところ、自分の中国語の感謝が日本語の感
謝の語用論的慣習になっていることに気づいたという回答が得られた。CN05は日本で学んでいる間にお
礼の言葉が増え、中国の家族に礼を言ったところ「水くさい」と言われたという。

【CN05 家族に水くさいと言われた】

CN05 : 日本人は家族にも礼を言いますよね。日本語を学んでいる間で、礼の言葉が増えてきて、こ
の前は、家族に礼とか言ったら、なんか水くさいなあと言われたことがあります。

CN05が「水くさい」という日本語をどのような意味で使っているのかを確認するため中国語で何と
言うか質問したところ、「見外」と答えた。日本語の「他人行儀にふるまう」「よそよそしい」という意味である。
同様にCN43も、中国での親や友達による否定的な反応について、これよりも強い表現で説明した。

【CN43 中国の従兄と友人に意識せずに言って、怒られる、にらまれる】

調査者：中国人とは言わない？

CN43：変わったかもしれないですね。一度家族と話したら、お兄さん、すごく親しい従兄なんですよ、お兄さんに、会って一時間も経たないで、お兄さん [から] 怒られたんですよ。

調査者：どうして？

CN43：えーなんでいつもありがとう言うんですか？って言われて。だから、怒られたんですよ。意識してないのに、言ってしまったんですね。それで怒られたんです。

調査者：ふうん。じゃあ、中国に戻った時は、なるべく言わないようにしている？

CN43：変わったって皆 [に] 言われたんですよ。友達とレストランに行くときもウェイターにちゃんと「ありがとう」と言う時に、友達が… (にらむジェスチャー) って見られて。「いつも言わなくてもだいじょうぶじゃない？」って言われて怒られたんですよ (笑い)。たぶん意識していない。でも言ってしまうですね。たぶん日本で暮らしてから影響がすごい頭の中に入って来るんですよ。たぶん私は他の中国人と違ってX研 [専門の資格試験勉強のサークル] もあるし、授業も1年生から3年までずっと日本人と一緒にだから。遊びに行くときもだいたい日本人の友達とか。それで色々頭の中に入って来るんです。

CN43は「自分が変わった」と感じている。中国の従兄から「ありがとう」と言ったことを怒られた経験や、友達ににらまれた経験から、意識せずにありがとうと言ってしまったことに気づく。日本で暮らしてから日本での生活の影響が「頭の中に入って来る」。それは他の中国人と違ってサークルや授業や遊ぶ時にずっと日本人の友人といるからだという。

中国語母語話者から違和感の反応を受けた経験はCN62もあった。C62は、中国の家族に対して感謝を表明したところ、家族が「気まづくなった」という経験を以下のように語った。

【CN62 家族が気まづくなった】

調査者：日本でありがとうって言う時と、中国でありがとうって言う時と違いがあると思いますか？

CN62：まあそうですね、中国人は「ありがとう」の意味はあんまり、国民性っていうか、恥ずかしいだから、普段もあんまり慣れてないんで。特に、日本の家族はどんな感じが分からないんですけど、特に中国では家族、お互いにあまり「ありがとう」とは言わないんですけど。

調査者：へー。今のロールプレイでもすごくうまくありがとうって言っていたけど、中国に戻ったらどうですか？

CN62：まあ、たまに、今も家族と連絡してるんですけど、なんかたまに親が (から) 仕送りをもらうとき、僕がすごく「ありがとうありがとう」って言うんだけど、なんか親のほう気まづく感じるかなあと思うんですね。

調査者：気まづいって親が言うんですか？

CN62：そうですね、「親子同士だから、あんまり言わなくてもいいよ」って。

調査者：それはもちろん日本語ではなくて中国語で「谢谢、谢谢」って言ったの？

CN62：まあそうですね。普通の〇〇 (チャットアプリ) みたいな文字だけでもなんか向こうが気まづくなった。

CN62は、中国では家族でお互いにあまり「ありがとう」を言わない慣習があるが、親から仕送りをもらったときに中国語で「ありがとう」を言った時や、文字チャットで感謝を表明した場合も「気まづくなっ

た」。親子の間に語用論的慣習のギャップがある経験である。両親が中国人で、子供の時から日本で暮らしているC-JNは、子供の頃の経験を語った。

【C-JN 中国人の親もありがとうと言うようになった】

C-JN : 私は…小学校の時の授業だったと思うんですけど、それですごいなんか「感謝を伝えよう」みたいなのを言われたのか、だから、ちっちゃい時けっこうこだわってましたね。

調査者 : こだわってた？

C-JN : 親に「なんか取ってきて」って言われた時も、「なんでありがとう言わないの？」ってめっちゃ、ちっちゃい時言ってた記憶があります。

調査者 : 親から言われた？

C-JN : いや、私が親に、言ってたと思うんで。たぶん学校で言われたのかなと思う。

調査者 : 小学校の先生とかがね。

C-JN : そう。

調査者 : 何か取ってきてもらうとか、家族に取ってきてもらうとか友達に取ってきてもらうとかにも「ありがとうを言いましょ」って教えていた。

C-JN : だと思います。

調査者 : そしたら家族も、ご両親ですよ、親は何て答えたんですか？

C-JN : あーいや、それ以来、たぶんすごい何でも「ありがとう」って言うようになった。

調査者 : 親も？

C-JN : そうですね、なんか頼むときに、もう先に、「なんとかしといて、ありがとう」、みたいな(笑い)。

C-JNは日本の学校教育で教えられた規範に従い、中国人の親に対して「なんでありがとう言わないの？」と親の中国の言語行動に異議をとなえた。それ以来、親は「何でも『ありがとう』と言うようになった」。家庭内の言語は中国語であるから、中国語で言っていた。例えば、何か依頼する際に先に「なんとかしといて、ありがとう」と言う。興味深いことに、依頼の際に「谢谢(ありがとう)」を付け加える形式は、英語でも中国語でも通常見受けられるが、日本語ではほとんどない。日本語では通知文のような公の場面で依頼の最後に「ご協力ありがとうございます」というフレーズは使われるが、個々人の依頼の直後に感謝を表明することは不自然であり、相手に依頼を断る余地を与えないため、ずうずうしい印象を与えかねない発話である。C-JNの親は家庭内でL1中国語の語用論だったが、娘から言語行動の変更を求められて日本語の感謝の語用論へと調整したことが窺える。とはいえ、依頼をする発話で「ありがとう」と言っていたということは、何事にも感謝を伝えるという日本語の語用論的慣習を受け入れながらも、L1の語用論を保持していたということになる。このL1とL2の混交もL2への適応と調整の一つのパターンであり、中間言語語用論と考えられる。

5. 考察：学習者の語りから得られた示唆

以上のように日本語の「感謝」の語用論的慣習を学ぶ契機や中国語との差異について気づきを得る契機等を学習者の語りから示した。語用論の学びの方法についてまとめると、第一に、日本滞在歴の長い中国人教師や先輩といったロールモデルがあり、明示的知識を得て日本人の接触場面で意識的に調整されてい

ることや、調整できていなかったと内省するケースがあった。第二に、日本人の実際の場面や映画などの場面を見て学ぶ場合があり、第三に、日本人とのインタラクションで、チャットアプリのやりとりや、ネガティブ・フィードバックから気づきを得る場合があった。グローバル社会や情報社会においては、学習者自らが日本という学習言語環境にない場合でも、日本在住経験者や日本語NSとの接触によって、日本語の語用論的慣習の学びが促される場合があることが明らかになった。その一方で、長く学習言語環境にいることや、アルバイトのような社会的文脈で気づきの機会を得ることで学習されている。インタビュー回答者のCNは日本語の知識として獲得するだけでなく、接触経験からL2のコミュニケーションの規範に気づき、社会的状況的文脈におけるふるまいを言語・非言語を問わず身につけていた。

では、学習者はNSとの接触場面において、どのように自らの発話行為を調整しているのか、すなわち日本語の社会言語能力をどのように発揮しているのか。「中国語ではお礼を言ったが、日本語では色々考えることが多いので忘れた」というケースは、L2では意図を伝えるために認知的なワーキングメモリが不足するので語用論的慣習まで考慮が至らなかったという解釈が可能であろう。学習言語環境に滞在する期間が長くなるに従い、「忘れないようになった」という。日本語場面で語用論を切り替える者は、接触場面で「日本文化に気を遣い」、「外国人だから」と自らの立場を意識し、「礼儀正しいほうがいい」という言語運用上のメタ認知を働かせて日本語に合わせて調整を行っていた。

さらには、日本語での感謝の慣習を身につけた結果、L1中国語の感謝の語用論的慣習が変容した経験も語られた。これは過剰適応もしくはL2からL1への逆行転移と呼ばれるような経験である。L2日本語の慣習で感謝を表現したために中国の家族や友人に「怒られた」ことや、「家族が気まづくなった」ことは、日本語の社会言語能力を獲得した結果、中国語L1場面でのコミュニケーションに支障をきたしたということであり、日本語の語用論的慣習に適応した結果として起こった問題である。L2の慣習からL1の慣習へ切り替え、L1へと再調整をする柔軟性が学習者の社会言語能力面の新たな課題となっていると考えられる。

6. おわりに

本研究の分析対象は限られているが、どのような経験を経て日本語の社会言語能力を発達させているのかを学習者自身の語りから示した。日本語NSの感謝場面を肯定的に評価して受け入れていることや、友人や恋人や子供などの重要な他者が日本語NSであるなど、社会言語能力の発達には、日本や日本人に対する心理的な側面の影響も大きいことが推察された。本研究のインタビュー対象者はいずれも日本の大学に留学中で日本語の習得が進んでいる上級レベルの、いわば成功した学習者であり、語用論的慣習に対する不適応の事例は対象にはならなかった。不適応をおこした学習者の語りを収録することは今後の課題とした。

多言語話者から成るクラスを教える日本語教員にとって、日本語学習者のL1と日本語との語用論の差異、すなわち、運用上の慣習の違いについての知識は重要である。語用論の差異の知識なしには学習者と接する際に彼らの日本語の社会言語能力について十分に把握できない。ただし、語用論上の規範には個人間の差異や、世代や階層、性差、所属コミュニティといった差異もあり^(註4)、個々人の用いる言語において何が日本語とL1との差異に起因する語用論的特徴なのかを特定することは容易ではない。しかしながら、学習者の日本語の社会言語能力をどのように評価し、いかにその発達を促していくのが日本語教育の課題であることには変わりはない。本研究のCNたちが気づいていたようにL1の語用論を日本語に転移したことが原因で「失礼な人」という人格的な面で否定的評価を受けることは避けられるようにしなければならない。そのためにも、背景の異なる学習者の複数の語りを収集し検討することや、それらを複眼的

な教材として、学習者同士の経験の共有による多面的な学び合いの場をひらくことができれば、社会言語能力の教育において有用だと思われる。

【註】

- (1) 世界における日本語学習者の国別内訳（国際交流基金 2023）をみると、中国・台湾で105万7千人と最も数が多く、中国語母語話者が30%以上を占める。
- (2) 調査に当たっては、所属機関の研究倫理審査の手続きを経て、調査協力者と調査協力受諾書及び調査誓約書を取り交わして行った。
- (3) しかし、調査協力者はほとんど日本語のみで回答した。また、インタビューのデータを示すにあたっては文法上の誤用や発音等も発話通りに文字化した。
- (4) 例えば本研究の予備調査でも、複数の中国語母語話者より、感謝の仕方については中国の南部と北部で地域差があるという話があった。

【参考文献】

- Cook, V. (2003) Introduction: The Changing L1 in the L2 user's mind. In V. Cook (ed.) *Effects of the Second Language on the first*, Clevedon, UK: Multilingual Matters.
- Eisenstein, M. and Bodman, J. (1993) Expressing Gratitude in American English. In: Kasper, G. and Blum-Kulka, S., (Eds), *Interlanguage Pragmatics*, Oxford University Press, 64-81.
- Gass, S. & Mackey, A. (2000) *Stimulated recall methodology in second language research*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum.
- Kasper, G. & Rose, K. R. (2002) *Pragmatic development in a second language*, Malden, MA: Blackwell Publishing.
- Takahashi, S. (2000) Transfer in interlanguage pragmatics: New research agenda. *Studies in Languages and cultures*, (11), 九州大学言語文化部, 109-128.
- Maeshiba, N., Yoshinaga, N., Kasper, G., & Ross, S. (1996). Transfer and Proficiency in interlanguage apologizing. In S. M. Grass & J. Neu (eds.), *Speech acts across cultures: Challenges to communication in a second language*, 155-187. Berlin: Mouton de Gruyter.
- 市原明日香 (2015) 「感謝表現研究の概観—日本語教育への応用に向けて—」『人間科学創成科学論叢』第18号、1-9.
- 市原明日香 (2018) 「日本語学習者は『感謝』の語用論上の差異をどのように捉えているか—『ありがとう』に対する戸惑いと困難—」『待遇コミュニケーション研究』第15号、1-17.
- 市原明日香 (2022) 「感謝ストラテジーにみる中国人日本語学習者の語用論的転移」『目白大学人文学研究』18、5-86.
- 金英美 (1995) 「韓国人留学生の〈感謝〉と〈詫び〉のあいさつ表現に関する一考察—日本人若年層と比較して—」『国語学研究』(34)、54-43.
- 黄郁蕾・玉岡賀津雄 (2015) 「中国人日本語学習者の助言場面における意識と行動に影響する諸要因」『言語文化と日本語教育』48/49合併号、11-21.
- 国際交流基金 (2020) 「JF日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック」(<https://www.jfstandard.jp/f.go.jp/publicdata/ja/render.do>) 2023年9月25日閲覧
- 国際交流基金 (2023) 「海外の日本語教育の現状2021年度 海外日本語教育機関調査より」
- サトウタツヤ・春日秀明・神崎真実編 (2019) 『質的研究法マッピング』新曜社

- 清水崇文 (2013) 『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』 スリーエーネットワーク
- 鈴木恵理子 (2013) 「中国人日本語学習者の逆行転移—日本滞在期間に注目して—」『秋田大学国際交流センター 紀要』 2号、3-18.
- スリーエーネットワーク編著 (2012) 『みんなの日本語 I 第二版 本冊』 スリーエーネットワーク社
- 孫守峰 (2007) 「感謝場面に使用される詫び表現の習得—在中と在日中国人学習者の詫び表現の使用率とパターン—」『日本語・日本文化研究』 17、165-174.
- 坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子著 (2020) 『初級日本語 げんき 1 【第3版】』 ジャパンタイムズ出版
- 日比野新・長友文子(2000) 「留学生の感謝表現の調査：日本人学生と比較して」『和歌山大学教育学部教育実践 研究指導センター紀要』 10、139-148.
- ネウストプニー, J.V. (1995) 『新しい日本語教育のために』 大修館書店

【謝辞】 本稿のインタビューデータは博士論文（市原 2019）のために収集したデータを利用している。インタビューに協力して下さった皆様及び拙論をご査読くださった皆様に心より感謝申し上げます。